

日本標準商品分類番号 872344
872355

承認番号	16000AMZ06586 16000AMZ06587(重質)
薬価収載	1971年11月 1971年11月(重質)
販売開始	1951年2月 1971年11月(重質)
再評価結果	1979年7月

【組成・性状】

性状：本品は白色のもろい塊又は粉末である。

沈降試験(日局)を行うとき、12.0mLの目盛以下のものは**重質炭酸マグネシウム**と表示しています。

【効能・効果】

胃・十二指腸潰瘍、胃炎（急・慢性胃炎、薬剤性胃炎を含む）、上部消化管機能異常（神経性食思不振、いわゆる胃下垂症、胃酸過多症を含む）

○便秘症

【用法・用量】

緩下剤として使用する場合：炭酸マグネシウムとして、通常、成人1日3～8gを頓用又は数回に分割経口投与する。

なお、年齢・症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- (1) 腎障害のある患者〔マグネシウムの排泄が阻害され蓄積をおこしやすい。〕
- (2) 心機能障害、肺機能障害のある患者〔血清マグネシウム値の上昇により、心機能及び肺機能の抑制をおこすおそれがある。〕
- (3) 下痢のある患者〔緩下作用により症状を悪化させるおそれがある。〕
- (4) 高マグネシウム血症の患者〔症状を悪化させるおそれがある。〕

2. 相互作用

併用注意（併用に注意すること）

薬 剤 名 等	臨 床 症 状 ・ 措 置 方 法	機 序 ・ 危 険 因 子
テトラサイクリン系抗生物質 ・テトラサイクリン ・ミノサイクリン等 ニューキノロン系抗菌剤 ・シプロフロキサシン ・トスフロキサシン等 エチドロン酸二ナトリウム	これらの薬剤の吸収が低下し、効果が減弱するおそれがあるので、同時に服用させないなど注意すること。	マグネシウムと難溶性のキレートを形成し、薬剤の吸収が阻害される。
セフジニル		機序不明
他の併用薬剤	併用薬剤の吸収・排泄に影響を与えることがあるので、慎重に投与すること。	炭酸マグネシウムの吸着作用又は消化管内・体液のpH上昇による。
大量の牛乳 カルシウム製剤	milk-alkali syndrome（高カルシウム血症、高窒素血症、アルカローシス等）があらわれるおそれがあるので、観察を十分に行い、このような症状が現れた場合には投与を中止すること。	機序：代謝性アルカローシスが持続することにより、尿管でのカルシウム再吸収が増加する。 危険因子：高カルシウム血症、代謝性アルカローシス、腎機能障害のある患者。

3. 副作用

本剤は、使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

種類 \ 頻度	頻 度 不 明
代謝異常	高マグネシウム血症 ^{注)}
消 化 器	下痢等

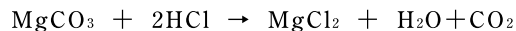
注) 長期大量投与により発現することがあるので、視察を十分に行之、異常が認められた場合には、減量又は休薬等の適切な処置を行うこと。

4. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

【薬効薬理】

胃酸とは次のように反応する。



本薬の制酸作用は弱く、その効力は酸化マグネシウムの約1/2である。瀉下作用も弱くて硫酸マグネシウムに劣り、その作用は腸管内で炭酸水素塩を形成することによる塩類下剤効果によるものと考えられる。また胃酸を中和し炭酸ガスを発生する。非吸収性であり、アルカローシスを生じない。

【取扱い上の注意】

〈配合変化〉ダイオウ末と配合すると変色するが、薬効に変化はない。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：炭酸マグネシウム (Magnesium Carbonate)

本品は含水塩基性炭酸マグネシウム又は含水正炭酸マグネシウムである。本品は定量するとき、酸化マグネシウム (MgO:40.30) 40.0～44.0%を含む。

性 状：本品は白色のもろい塊又は粉末で、においはない。

本品は水、エタノール (95)、1-プロパノール又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。

本品は希塩酸に泡立って溶ける。

本品の飽和水溶液はアルカリ性である。

【包 装】 5 0 0 g

【主要文献】

第14改正日本薬局方解説書(2001) 廣川書店

【文献請求先】 山善製薬株式会社 学術室 TEL 06-6231-1821 FAX 06-6231-1824
〒541-0045 大阪市中央区道修町2-2-4

製造発売元



山善製薬株式会社

大阪市中央区道修町2丁目2番4号